

自治体作成のやさしい日本語（話し言葉）のガイドラインの留意事項一覧

	類型	話し言葉に関する留意事項	類似の表現による留意事項（自治体作成のガイドライン）	在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン（書き言葉のガイドライン）での類似の記載
1	技術論	短く区切って話す	・説明は短く簡潔に ・長く話さない。短く区切って話す ・短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す ・情報をたくさん盛り込まない。基本は 1文 1情報 ・短く区切って話す ・長く話さない。短く区切って話す	P8 文をわかりやすくする（1） ○一文は短くする（一文に言いたいことは1つだけ） 一文の中に複数の内容が含まれると理解するのが難しくなります。 ○3つ以上のことを言うときは、箇条書きにする 3つ以上のことを言うとき、接続詞で文をつないでいくとわかりにくくなります。
2	技術論	はっきり話す	・短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す ・ゆっくりはっきり発音する ・ゆっくり、はっきりと話す	P8 文をわかりやすくする（1） ○回りくどい言い方や不要な繰り返しはしない 伝えたいことを明確に、簡単に書きます。
3	技術論	ゆっくり話す	・大きく書いてゆっくり話す（文節で区切りながら話す） ・ゆっくり話す ・短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す ・ゆっくりはっきり発音する ・話すときには、ゆっくりと聞き取りやすい速さを心がけましょう ・一言ずつ、ゆっくり話す ・ゆっくり、はっきりと話す ・ゆっくり話す	
4	技術論	最後まで言い切る	・最後まで言い切る	P9 言葉に気を付ける ○曖昧な表現はできる限り使わない 曖昧な時間や数字を表す表現は多用しないようにします。複数の意味を持つ表現は使わないようにします。
5	技術論	難しい言葉や言い回しを使わない	・難しい言葉を使わない ・難しい言葉や言い回しを使わない ・熟語はなるべく使わない（相手が漢字圏の場合なら、通じることもある） ・熟語はなるべく使わない ・専門的な言葉（行政用語は）、日常的によく使う言葉に言い換える。ただし、専門的であっても、覚えておいた方がいい言葉は、併せて伝える ・専門的な言葉は、日常的に使うやさしい言葉に言い換える ・抽象的な表現は避け、具体的に伝える。特に、行動を指示する際は、簡単な言葉で明確に伝える（婉曲表現は用いない） ・抽象的な表現は避け、具体的に伝える ・業務上の特殊な言葉を、簡易な語彙に言い換える。税金を納めてください。納付してください。→税金を払ってください。 ・専門的な言葉は、日常的によく使う言葉に言い換える	P9 言葉に気を付ける ○簡単な言葉を使う（難しい言葉を使わない） 対象とする外国人に合わせてわかりやすくします。難しい言葉や専門用語はできる限り使わないよう心がけます。 ○曖昧な表現はできる限り使わない 曖昧な時間や数字を表す表現は多用しないようにします。複数の意味を持つ表現は使わないようにします。 P10 言葉に気を付ける ○重要な言葉はそのまま使い、＜＝…＞で書き換える 言い換えが難しいときは、その言葉を説明するようにします。災害用語や日常生活でよく使う言葉など、知っておくとよい言葉はそのまま使い、言葉の後に説明を加えます。
6	技術論	敬語・謙譲語は控えめにする	・尊敬語、謙譲語は使いすぎない ・尊敬語、謙譲語はできるだけ避ける ・敬意を払いながら、敬語は使わなくていい 例：おかけ下さい→座ってください ・敬語は控えめにする	P10 文をわかりやすくする(2) ○文末は「です」「ます」で統一する 尊敬語、謙譲語は使わず、敬語は丁寧語だけにします。
7	技術論	擬音語・擬態語は使わない	・擬音語、擬態語は使用しない ・日本語の「オノマトペ」「擬音語・擬態語」を使わない 例「ざっくりでいいですよ。」「パパッとやってしまいましょう。」	
8	技術論	二重否定を使わない	・二重の否定表現は使わない。例：ないこともない	P9 文をわかりやすくする（2） ○二重否定を使わない 受身形や使役表現をできる限り使わない 「～ないことはない」「～ないわけではない」「～以上／以外は必要ない」などの二重に否定する表現はわかりにくくなります。
9	技術論	不必要な疑問形は使わない（疑問の形をとった依頼は避け、明確に伝える）	・不必要な疑問形は使わない（疑問の形をとった依頼は避け、明確に伝える）	
10	技術論	カタカナの外来語（和製英語）を使わない	・外来語カタカナ語は△（あまり使わないよう心がける） ・カタカナの外来語（和製英語）を使わない。（通じない） ・カタカナ外来語はできるだけ使わない。外国語での意味と異なる、発音が違う、その言葉が存在しない等の場合がある ・原語と意味の異なるカタカナ語は、使わない ・カタカナ外来語はできるだけ使わない	P8 外来語に気を付ける ○外来語（カタカナ語）はできる限り使わない 外来語は、「バス」、「ガス」、「テレビ」など、外来語以外に適切な日本語がない場合のみ使用します。外来語には、原語と意味や発音の異なるものが多いため、使うときは注意が必要です。
11	技術論	必要に応じた声の大きさと話す	・必要に応じた声の大きさ	

12	技術論	資料や図を活用する	・やさしい日本語と一緒に使うと便利な指さし単語集を掲載 ・資料や図を活用する ・カード、書類、カレンダー、地図などを示し、具体的に伝える ・身振り手振りや実物を示す	P7 情報を整理する ○イラスト、写真、図や記号を使ってわかりやすくする イラストや図解を使うことで、視覚的にわかりやすくします。
13	技術論	キーワードとなる単語、略図などを紙に書いて渡す	・大事なことはメモに書いて渡す ・その数字は必要ですか？（必要な数字ならメモにする） ・キーワードとなる単語などを紙に書いて渡す ・場所を伝えるときは略図を書いたり窓口の番号で伝える	
14	心構え	相手を思いやり、小さな子どもに話するようにしない	・最も大切なことは相手を思いやる態度 ・相手に応じた適切な使い分け（小さな子どものような扱いをされると不愉快に感じることもある） ・小さな子どもに話するようにしない	
15	心構え	会話の中で相手が分かっているか確認し、分かってなかったら別の言葉で言い換える	・こまめに確認（会話中、「わかりますか?」「いいですか?」「質問はありますか?」などの声かけをする ・会話の中で相手が分かっているか確認 ・分かっていないと感じたら、別の言葉で言い換える ・相手の表情や反応を見ながら話す ・相手に伝わっているか確認することが重要 ・分かってなかったら、別の配慮や工夫を考えてもう一度伝える ・理解しているかどうか確認する（繰り返し ・積極的に言葉を言い換える ・相手が理解しているか、確認しながら話す ・理解度の確認（分かっているかどうかを確認）	
16	心構え	受け手のレベルに合わせて会話する	対象者は、日本語で買い物ができる程度のレベル（N4・・・日本語能力試験4級）と考える ・相手の日本語力に応じて言葉を選ぶ ・受け手のレベルに合わせて会話する	P5 （1）このガイドラインの目的（吹き出し部分） やさしい日本語を使う際には、対象にする外国人の言語背景や日本語能力などに応じて、柔軟に調節する必要があります。そのため、このガイドラインではあえて厳密な基準は示していません。
17	心構え	会話の中で相手が分かっているか確認し、分かってなかったら別の言葉で言い換える	・こまめに確認（会話中、「わかりますか?」「いいですか?」「質問はありますか?」などの声かけをする ・会話の中で相手が分かっているか確認 ・分かっていないと感じたら、別の言葉で言い換える ・相手の表情や反応を見ながら話す ・相手に伝わっているか確認することが重要 ・分かってなかったら、別の配慮や工夫を考えてもう一度伝える ・理解しているかどうか確認する（繰り返し ・積極的に言葉を言い換える ・相手が理解しているか、確認しながら話す ・理解度の確認（分かっているかどうかを確認）	
18	心構え	受け手のレベルに合わせて会話する	対象者は、日本語で買い物ができる程度のレベル（N4・・・日本語能力試験4級）と考える ・相手の日本語力に応じて言葉を選ぶ ・受け手のレベルに合わせて会話する	P5 （1）このガイドラインの目的（吹き出し部分） やさしい日本語を使う際には、対象にする外国人の言語背景や日本語能力などに応じて、柔軟に調節する必要があります。そのため、このガイドラインではあえて厳密な基準は示していません。
19	技術論／心構え	アイコンタクトやあいづちを打つ	・アイコンタクトや笑顔を忘れずに ・あいづちをたくさん打つ、相手の話を理解したことをはっきりと示す	